

長崎市立図書館開館10周年を迎えて

黒岩 秀文

平成20年(2008)1月5日に、長崎市民待望の市立図書館が開館以来、10周年を迎えた。開館初日には約1万人もの方々に入館いただき、開館セレモニーでは市長あいさつに引き続き、諏訪小学校の児童による「龍踊」を披露していただいた。当時、私も喜びと感動で胸いっぱいになったことを今でもよく覚えている。



「市立図書館開館初日(市立図書館提供)」

あれから10年。現在の市立図書館も毎日多くの利用者が訪れ、館内では様々な展示やイベントなども行われており、今では市民に親しまれている図書館になった。

建設当時から運営に携わった者として、改めて図書館の建設・開館に関わった皆さんに感謝申し上げますと思っています。

当時は全国の県庁所在地において、本格的な市立図書館がなかったのは長崎市だけであったことから、市民をはじめ多くの関係者からすばらしい市立図書館を建設してほしいとの要望もあり、私自身も全国の図書館を自分の目で見学し、各地の図書館の優れたところ

を長崎市立図書館に取り込んできた。

そこで、市立図書館の特徴をいくつか述べるとまず、すべての蔵書にICタグ(チップ)を添付することにより、自動化書庫・自動貸し出し機・自動仕分け機等の新しい技術を導入することができ、最先端の図書館としてアピールすることができたことである。

また、建物についても図書館の前面をガラス張りにし、自然光を取り入れて明るく開放的な雰囲気を作り出すとともに、壁面緑化(緑化ルーバー)や屋上緑化を積極的に取り込むなど地球環境にも配慮しながら、緑の中で市民が憩えるような図書館とすることができた。

その他にも、かつてこの場所に新興善小学校があったことから、「新興善メモリアル」を併設するとともに、原子爆弾だけがを負った多くの人々が治療を受けた救護所を再現した「救護所メモリアル」を館内に建設し、図書館と一体的に運営している。

このように図書館として、平和の大切さを市民や利用者へ伝えることができるのも大きな特徴であるといえる。

また今日では、この長崎市立図書館の誕生により、同市立図書館を中心に市内の公民館やふれあいセンターなど56館の図書室等とネットワークで結ぶことで、全国に有数の図書館ネットワークが整備されてきた。具体的に述べれば、市立図書館で借りた本は本館でも自宅の近くの公民館図書室やふれあいセンターなど、どこでも返却や貸し出しができるようになり、市民にとって非常に利用しやすい図書館になった。

さて、この度、長崎市立図書館の入館者数が平成30年5月13日で1千万人を達成した。(2018年1月4日では9,691,965人)平均して、毎年約100万人の方々が市立図書館を訪れ図書館を利用していることになる。これからのように、より多くの市民に利用していただくために今後、長崎市立図書館には次のようなことを望みたいと思う。

風信

一、長崎の六月と言えば、まず六月一日の小屋入りに始まる。本年当番の踊町の人々は早朝より町内にひびきわたる太鼓と笛のシャギリの音に目をさまし、黒紋付袴に着がえ、昔は町内に用意された奉納踊稽古小屋に集い、それから行列を組み、長崎の氏神諏訪神社に参拝。その礼拝式が済むと市内各町内事務所をシャギリと共に挨拶に廻り、午後四時頃には各町内事務所前に帰り着かれるそうである。

一、この各踊町の当番は江戸時代より町数が決められており、現在の踊町は七年に一度、七町程度であるという。その順番が廻つてくると、その踊町の人々は五月頃より何か生き生きとしておられるようである。

一、この他、六月の行事については、先日、織田毅先生(シーボルト記念館長)が編輯された「長崎歳時記」によると、六月の行事として次の事項が記してあった。第一に八坂町のギオン様。諏訪神社の鮎まつり。清水寺の千日まいり。二十四日は愛宕神社の角力奉納。なかでも月末の諏訪神社の「夏越さま」は有名で社前に三ツの大きな萱の輪が作られ、之をくぐりぬけて帰ると無病息災になるといふ。

一、六月十七日(日)午後一時半より第五回長崎県下九條の会・学習交流会が長崎市民会館(アマランス)で井田洋子先生(長崎大学教授)を中心に「私たちの命とくらしーこの先どうなる」を主題に意見交換。ついで県下からの報告会がある。御自由に御参加下さいとの事。(参加費無料)

一、先月末日曜の午後一時半より宮ノ下公園(大井手町)で戦後をはじめ長崎こま廻し大会(松原一成氏主唱)がありました。長崎コマの売店もあり、参加者も多く盛会でした。

○今月ご寄贈いただいた書籍
一、長崎市教育委員会より「出島和蘭商館跡」(発掘調査報告書)全三冊。一分冊遺構出土遺物編、二分冊分析考察編、三分冊建造物復元工事報告書。出島商館研究資料としては戦後発掘調査資料の第一であり貴重な資料でした。

一、長崎文献社より「出島つながる架け橋」長崎キリシタン史・愛のまちー西岡由香著「両書ともに楽しく読ませて戴きました。

一、時津文化協会より「ときつ文化37号」時津文化協会の会員集で楽しめる文集。
一、十八銀行長崎経済研究所より「ながさき経済No.342」
県内企業、賃上げアンケート、お魚たべますか等。



「緑の中にたたずむ市立図書館」

最後に、これからの超高齢化社会の中、図書館は社会教育施設として中核的な施設となっていくと考えられることから、司書の皆さんをはじめ市立図書館関係者の方々は、長崎市民に親しまれ、愛される長崎市立図書館にしていきたいと思う。

(元市立図書館初代館長・歴史民俗資料館学芸員)

長崎歴史文化協会 研究室

TEL 八二二一五四〇

十八銀行公会堂前出張所 二F

